

## 連合研究科共同研究プロジェクト研究成果報告書

プロジェクト の名称	「伝統と文化」に関する教育課程の編成と授業実践の総合的研究		
研究期間	平成21年4月1日～平成24年3月31日	プロジェクト記号	J
<b>チーム構成員の氏名・職名等・所属（配属）大学（◎：チームリーダー）</b>			
◎安部崇慶 教授 兵庫教育大学	浅川潔司 教授 兵庫教育大学		
中村 哲 教授 兵庫教育大学	大畑健実 校長 島田市立第五小学校		
佐藤 真 教授 兵庫教育大学	前原敏雄 元校長 東広島市立志和中学校		
福本謹一 副学長 兵庫教育大学	永添祥多 教授 近畿大学		
永木耕介 教授 兵庫教育大学	アレキサンダー・ベネット 准教授 関西大学		
山本宏子 教授 岡山大学教育学部	沈 明敏 准教授 華東師範大学		
西園芳信 副学長 鳴門教育大学	金 廷姫 教授 京仁教育大学		
余郷裕次 教授 鳴門教育大学	張 東浩 准教授 全州教育大学		
<b>プロジェクトの概要と研究成果</b>			
<p><b>1. プロジェクトの概要</b></p> <p>平成18年12月に我が国における戦後約60年間の教育指針であった教育基本法が改正された。その教育目標のひとつとして、「我が国の伝統と文化を基盤として国際社会を生きる日本人の育成」が明記された。この教育基本法改正を踏まえて新しい学習指導要領の検討が中央教育審議会においてなされ、本年3月に文部科学省から新しい幼稚園教育要領、小学校学習指導要領及び中学校学習指導要領等が公示されたのである。この新学習指導要領では、「確かな学力、豊かな心、健やかな体の調和を重視する『生きる力』」の育成を理念として、伝統と文化に関する教育が重要な役割を有するものとされている。そして、学校教育の教育課程においては、国語科の古典、社会科の小学校歴史学習、中学校の地理・歴史・公民の三分野、技術・家庭の伝統的な生活文化、音楽科の唱歌・和楽器、美術科の我が国の美術文化、保健体育科の武道などの内容が充実事項とされている。</p> <p>平成23年度からは小学校、平成24年度からは中学校において新学習指導要領の内容に基づく伝統と文化に関する教育の具体化が切実な課題となる。この課題に対しては、国及び各自治体において先駆的に実践研究がなされている。例えば、平成17年度から東京都教育委員会では「日本の伝統・文化理解教育推進事業」が始まり、推進校（60校園）の幼稚園、小中高、特別支援学校において教育研究を進展させている。さらに、国立教育政策研究所の「我が国の伝統文化を尊重する教育に関する実践モデル事業」が、全国の小中高の研究推進校（100校程度）において実施されている。また、東広島市と静岡</p>			

県島田市では地域の全小中学校において推進されている。高等学校においては平成 19 年度から都立学校における学校設定教科・科目として「日本の伝統・文化」、兵庫県では高校設定科目としての「日本の文化」が実践されている。また、平成 20 年度からは埼玉県の高校設定科目「伝統・文化」が始まっている。しかしながら、これらの先行研究は各推進校における実践研究に留まり、「伝統と文化」に関する教育の目標論としての学力形成の性格、教育課程の編成、授業実践の方法に関する理論的研究が着手されていない現状である。したがって、これらの先行授業事例を参考に我が国における「伝統と文化」に関する教育の実践研究を根拠づける理論的研究の推進が求められる。

本研究は、今後の我が国の重要な教育課題である「伝統と文化」に関する教育を理論的・実践的に推進するものである。研究目的としては、東京都、東広島市、島田市などの「伝統と文化」に関する教育の先駆的地域の実践を研究対象として歴史研究、理論研究、比較研究、実践研究、心理研究の方法に基づき、次の 8 事項を具体的に設定している。

- ① 日本と外国における「伝統と文化」に関する教育の教育課程と授業実践に関する資料収集とそのデータベースを開発する。
- ② 日本と外国における「伝統と文化」に基づく教育の授業実践の中からモデル授業実践を撮影し、デジタル映像記録を作成する。
- ③ 日本における「伝統と文化」に関するモデル授業実践の授業内容と授業方法を歴史研究、理論研究、実践研究の方法によって解明する。
- ④ 日本における「伝統と文化」に関するモデル授業実践に関与している学習者の学力を心理研究の方法によって解明する。
- ⑤ 日本における「伝統と文化」に関する授業実践の研究成果を外国における調査研究成果と比較し、教育課程の編成と授業実践の共通性と相違性を解明する。
- ⑥ 日本と外国における「伝統と文化」に関する教育課程と授業実践の研究成果を国内外の研究者と教育者による研究発表交流会を実施する。
- ⑦ 日本における「伝統と文化」に関するモデル教育課程とモデル授業実践を開発する。
- ⑧ 「伝統と文化」に関する教育の研究成果を図書として刊行をする。

## 2 プロジェクトの研究成果

本プロジェクトは、戦後約 60 年間の教育指針であった教育基本法の改正を受けて改訂された新学習指導要領に基づく教育改革と平成 17 年度から実施されてきた「伝統と文化」に関する教育の先駆的取組の動向を視野に、今後の我が国の重要な教育課題である「伝統と文化」に関する教育を理論的・実践的に推進するものである。その為、東京都、東広島市、島田市などの「伝統と文化」に関する教育の先駆的地域の実践を研究対象として歴史研究、理論研究、比較研究、実践研究、心理研究等の総合的方法に基づく研究となっている。そして、研究組織は教育史、教育方法、教科教育、教育心理等の研究者、東広島市と島田市の教育実践者、さらに海外の教育研究者も含めた構成となっている。

平成 21 年度では、伝統と文化に関する教育実践を観察・調査することを主目標として、

文献・事例の収集・蓄積と先駆的地域の概査に基づいてWEBデータベースの開発を行った。平成22年度では、伝統と文化に関する教育実践を解明することを主目標として、各構成の問題関心を踏まえた歴史研究（芸道稽古論）、理論研究（実践から理論解明）、実践研究（理論から実践開発）、心理研究（学習意識と学習効果の調査）、比較研究（韓国と中国における動向）を推進した。平成23年度では、伝統と文化に関する教育実践の研究成果を公表することを主目標として、学会での発表と研究成果の刊行を行った。このような研究期間において、構成員会議を毎年実施（平成21年度5回、平成22年度4回、平成23年度2回）し、単著、編著、学会論文、国内外での学会発表、雑誌論文など100を超える研究成果を公表している。これらの研究成果の核として、平成24年3月に『「伝統と文化」に関する教育課程の編成と授業実践』（風間書房）が刊行されたのである。なお、本著については「日本教育新聞」（平成24年5月7・14日）の書評において紹介されている。

このような本プロジェクトの研究成果の意義としては次のことが指摘できる。

- ①本研究では「伝統と文化」に関する教育の先行事例を収集し、データベースを開発し、伝統と文化に関する教育の研究情報を社会的共有システムとして活用できる研究環境を構築していること。
- ②本研究では「伝統と文化」に関する教育を歴史研究、理論研究、実践研究、比較研究、心理研究等の方法に基づいて研究し、過去・現在・未来という時間的関連、地域・日本・諸外国という空間的関連、教育者と学習者の心理的関連を視野に、教育実践の総合的研究を推進していること。
- ③本研究では総合的な学習の時間における授業実践だけでなく、国語、社会、音楽、美術、体育、家庭などの各教科における授業実践と教育課程の編成も研究対象とし、教育課程としての教科と教科外の関連、教科指導における指導方法と学力形成との関連も研究していること。
- ④本研究では外国（韓国と中国）における「伝統と文化」に関する教育研究も取り入れ、日本の「伝統と文化」に関する教育研究との比較によって「伝統と文化」に関する教育の理論と実践を国際的視野から検討できること。
- ⑤本研究では「伝統と文化」に関する教育研究の視点を踏まえて、東広島市と島田市などの地域の学校との協力関連に基づいて研究し、教育研究の成果が地域における学校づくりと地域づくりに活用できること。
- ⑥本研究では研究成果を国内外の研究者と実践者との研究発表の場を設定し、研究成果を図書刊行によって公開し、研究成果が限られた研究者のみに提示されるのではなく、国内外の多くの教育関係者の関心を誘発できること。

なお、本研究の基盤となる「伝統と文化（和文化）教育実践WEBデータベース」のURLは、次のようになっている。

<http://28.pro.tok2.com/~hyogoshakai/wa/index.html>

### 3 研究成果の公表（主な著書と論文）

1. 中村 哲、伝統と文化に関する教育、加藤幸次、明石要一、『小学校の社会科を読み解く』、日本文教出版、2009 pp. 22-27
2. 中村 哲、伝統や文化に関する教育をどう充実させるか、「月刊高校教育」、学事出版、2009、pp. 28-31
3. 中村 哲編著、『伝統や文化に関する教育の充実』、教育開発研究所、2009、pp. 1-229
4. Akitoshi Sogabe, Taketo Sasaki, Mitsuharu Kaya, Kosuke Nagaki, Shunsuke Yamasaki, Correlation between Heart Rate on Morning Rising and Condition of Judo Players during Training Camp 2009 Archives of Budo Vol.5, pp.41-45.
5. 永木 耕介、嘉納治五郎は何をみていたのか—嘉納の柔道思想、友添秀則編『スポーツ思想を学ぶ』現代スポーツ評論 23、創文企画 2009 pp. 101-108
6. 永木 耕介、伝統文化を保健体育科でどう指導するか、中村哲編著『伝統や文化に関する教育の充実』教育開発研究所 2009 pp. 152-155.
7. 永添祥多、東京都と兵庫県における日本文化理解教育の展開、『九州教育経営学会研究紀要』第 15 号、2009 pp. 45-53
8. 永添祥多「チャレンジスクールにおける日本文化理解教育—東京都立大江戸高等学校を事例として—」『日本高校教育学会年報』第 15 号、2009、pp. 36-45
9. 永添祥多、我が国の伝統や文化の教育に対する児童・生徒の意識実態、『九州教育経営学会研究紀要』第 16 号、2009、pp. 63-71
10. 中村 哲、和文化教育の動向と特色—東広島市、島田市、東京都の先進的取り組みを手がかりに—、『社会系諸科学の探究』、法律文化社、2010、pp. 89-101
11. 中村 哲、伝統文化教育の性格と教育実践、「国語科教育」明治図書、No. 717、2010、pp. 28-30
12. 余郷裕次『絵本のひみつ —絵本の知と読み聞かせの心—』徳島新聞社 2010 pp. 1-115（本書は、絵本モニタージュ論に基づく絵本の分析とその読み聞かせの効果について、先行研究を踏まえながら仮説的に提起したものである。絵本のキャラクターのベビーシェマの効果、画面構成の効果、色彩の効果、絵本モニタージュの効果等について、実際の絵本の分析を通して指摘するとともに、その読み聞かせの効果、母親語（育児語）との類似性、視覚的共同注視等の観点から追求している。さらに、絵本の読み聞かせの効果について、日本の伝統的言語文化の基盤になっている「呼吸」の問題と関わらせながら論じている。日本の伝統的言語文化の基盤となる「呼吸」とは、相手の呼吸を「引き込む」ことで、相手の呼吸と自分の呼吸とをシンクロさせるような「呼吸」であると指摘し、そのような「呼吸」の育成が絵本の読み聞かせの効果として期待できることを提起している。）
13. 永木 耕介、ヨーロッパにおける柔道普及と「柔道世界連盟」構想、生誕 150 出版記念委員会編 『気概と行動の教育者—嘉納治五郎』『（筑波大学出版会）2010 pp. 188-201
14. 永添祥多、我が国の伝統や文化に関する教育の充実という観点から見た『高等学校学習指導要領』の問題点、『和文化教育研究紀要』第 5 号、2011、pp. 6-9

15. 永添祥多、我が国の伝統や文化の教育に対する教員の意識実態、『和文化教育研究紀要』第5号、2011、pp. 21-24
16. 中村 哲、武道における〈こころ〉の鍛錬と武道教育の意義、『教育フォーラム〈こころ〉を育てる』、金子書房、No. 47、2011、pp. 70-80
17. 中村 哲、豊かな心をはぐくむ伝統と文化に関する教育活動、『兵庫教育』、兵庫県教育委員会、No. 720、2011、pp. 4-9
18. 西園芳信、デューイ芸術論にみる異民族芸術を経験することの意味、『鳴門教育大学研究紀要』第26巻、2011 pp. 297-304.
19. 永添祥多『日本文化理解教育の目的と可能性—小・中学校の事例を中心として—』風間書房、2011、pp. 1-260
20. 永木 耕介、嘉納による柔術のスタンダード化と海外普及、菊幸一編『日本体育協会創成期における体育・スポーツと今日的課題—嘉納治五郎の成果と今日的課題—平成22年度・日本体育協会スポーツ医・科学研究報告Ⅲ』（日本体育協会）2011 pp. 7-13
21. 佐藤真、総合的な学習の時間・協同的な学習を生かした学習指導の創造と展開、『初等教育資料』文部科学省編・東洋館出版社 第861号 2012.6 pp. 130-135
22. 中村 哲、伝統と文化に関する教育の動向と意義、「日本教育」、日本教育会、2012 pp. 1-4
24. 中村 哲、武道教育の意義と展望、國學院大学人間開発学会、人間開発学研究、第3号、2012、pp. 27-36
26. 中村 哲、どうする新教育課程の評価・指導要録〈中学校編〉伝統や文化の教育の尊重、『週間教育資料』、教育公論社 2012年1月16日号
27. 安部崇慶・中村 哲、「伝統と文化」に関する教育課程の編成と授業実践、風間書房、2012、pp. 1-263
28. 安部崇慶、「伝統と文化」に関する教育のパラダイム—芸道稽古論を中心に—、安部崇慶・中村哲編著『「伝統と文化」に関する教育課程の編成と授業実践』、風間書房、2012、pp. 3-15
29. 中村 哲、「伝統と文化」に関する教育に基づく授業実践の新動向と特色、安部崇慶・中村哲編著『「伝統と文化」に関する教育課程の編成と授業実践』、風間書房、2012、pp. 16-32
30. 大畑健実、「伝統と文化」に関する教育課程の編成と授業展開—静岡県島田市の小学校実践事例を中心にして—、安部崇慶・中村哲編著『「伝統と文化」に関する教育課程の編成と授業実践』、風間書房、2012、pp. 23-50
31. 余郷裕次、国語科における呼吸を育てる絵本の読み聞かせと音読活動、安部崇慶・中村哲編著『「伝統と文化」に関する教育課程の編成と授業実践』、風間書房、2012、pp. 53-67
32. 西園芳信、音楽科における伝統音楽の指導内容と授業実践、安部崇慶・中村哲編著『「伝統と文化」に関する教育課程の編成と授業実践』、風間書房、2012、pp. 68-82
33. 山本宏子、音楽科における日本音楽についてのコミュニケーション能力の育成、安部崇慶・中村哲編著『「伝統と文化」に関する教育課程の編成と授業実践』、風間書房、2012、

pp. 83-100

34. 福本 謹一、図画工作・美術科における「伝統と文化」の学習、安部崇慶・中村哲編著『「伝統と文化」に関する教育課程の編成と授業実践』、風間書房、2012、pp. 101-110
35. 永木 耕介、体育科における「武術あそび」による体ほぐし、安部崇慶・中村哲編著『「伝統と文化」に関する教育課程の編成と授業実践』、風間書房、2012、pp. 111-125.
36. 알렉산더・베넷、保健体育科における武道指導の問題点と教育プログラム、安部崇慶・中村哲編著『「伝統と文化」に関する教育課程の編成と授業実践』、風間書房、2012、pp. 126-139.
37. 前原 敏雄、保健体育科における杖道の教材化—東広島市の取り組みを事例に—、安部崇慶・中村哲編著『「伝統と文化」に関する教育課程の編成と授業実践』、風間書房、2012、pp. 146-190
38. 甲斐 純子、家庭科における「伝統と文化」教材の開発—「博多織」と「久留米絨」—、安部崇慶・中村哲編著『「伝統と文化」に関する教育課程の編成と授業実践』、風間書房、2012、pp. 161-171
39. 佐藤 真、総合的な学習の時間における「伝統と文化」に関する授業の要点、安部崇慶・中村哲編著『「伝統と文化」に関する教育課程の編成と授業実践』、風間書房、2012、pp. 172-182
40. 永添 祥多、我が国の伝統や文化の教育に対する小・中有学生の意識実態—質問紙調査結果の分析を中心として—、安部崇慶・中村哲編著『「伝統と文化」に関する教育課程の編成と授業実践』、風間書房、2012、pp. 199-207
41. 浅川 潔司、和文化教育プログラムと中学新入生の学校適応感形成との関連に関する学校心理学的研究、安部崇慶・中村哲編著『「伝統と文化」に関する教育課程の編成と授業実践』、風間書房、2012、pp. 185-198
42. 金 廷姫、美術教育的観点からの文化教育の内容と学習戦略—韓国における美術科を手がかりとして—、安部崇慶・中村哲編著『「伝統と文化」に関する教育課程の編成と授業実践』、風間書房、2012、pp. 211-225
43. 張 東浩、韓国における「伝統と文化」に関する教育動向—全羅北道における伝統文化教育を中心として—、安部崇慶・中村哲編著『「伝統と文化」に関する教育課程の編成と授業実践』、風間書房、2012、pp. 226-238
44. 沈 曉敏、中国における伝統文化教育の現状と課題、安部崇慶・中村哲編著『「伝統と文化」に関する教育課程の編成と授業実践』、風間書房、2012、pp. 239-252
45. 中村 哲、「伝統と文化」に関する教育実践WEBデータベースの構成と意義、安部崇慶・中村哲編著『「伝統と文化」に関する教育課程の編成と授業実践』、2012、pp. 253-260